

巻頭言



名寄市立大学保健福祉学部学部長
瀬戸口 裕二

巻頭言を書く前に、新図書館建設を巡り、多くの課題に丁寧に対処され、大切な合意形成にご努力を惜しまなかった運営委員会の皆様と図書館職員の皆様に敬意を表したいと思います。

私が本学に着任して6年が経ちました。9月の着任だったので、北海道の夏の終わりの頃でした。そのときに、思い出していた風景がありました。10年ほど前に訪ねていたイギリス中部の風景でした。その頃、私は、文部科学省の調査研究で発達障害の学校教育について視察を行っていました。イギリスでは、読字障害 (Dyslexia) を中心とした学習障害 (LD: Learning Disability) の定義が早くから確立し、早期の発達段階から教育的支援に取り組んでいました。公教育においてもそうだったのですが、特に、私立学校が特徴的な取り組みを展開しており、そこが視察対象となったのです。旧貴族の邸宅跡の佇まいをできる限りに残して改修された私立学校をいくつか視察したのですが、そのどれもが、広大な敷地で、きれいに整備された芝生のグラウンドを持ち、その向こうには田園風景と山々の遠景を見渡すことができました。その風景が北海道の風景によく似ていたのです。

その学校は、どれも寄宿制で、世界各地からの生徒が集まる学校でした。どの学校にも共通して、入り口には必ずアインシュタインの写真と「I was a dyslexia.」と書かれたポスターが貼られ、奥へ導くように、誰もが知るような多くの著名人が「I was a dyslexia.」と書かれたポスターになって貼られていました。そのポスターが、その子どもたちを力づけていました。そのポスターに誘われて至った場所が、学校の中心に位置する図書館だったのです。らせん状で3層ほどの段差のある構造の図書館でしたが、適度に暗くて、あちらこちらにピンスポットが配置され、ビーンズクッションが置かれていました。私が訪ねた時間帯には子どもたちはいませんでしたが、クッションに寄りかかったり、その子どもを取り囲むように何人かが本を読んだりしている姿が容易に想像できました。

きっと、図書館とは、そんな場所であっていいのだと思いました。それぞれのスタイルで、学びたいものを探したときに、きっと子どもたちは学ぶのだという思いがわいたのを記憶しています。本学の図書館が多くの努力を経て、新たなスタートを切ろうとしています。本学の背丈に合った、自由で闊達な空間を目指して、私自身も図書館に通いたいと思改めて思っています。



【学生向け新図書館見学ツアー風景】

私の愛読書

5名の先生方に「私の愛読書」を紹介していただきました。
年末年始は本を読む絶好の機会です。暖かい室内でのんびり
読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。

- ①作品名。
- ②その作品を読んだきっかけ。
- ③その作品の魅力について。
- ④読書の良さを教えてください。

栄養学科 丸山洋介



①『星々の悲しみ』 宮本 輝

②高校の時に現代文の模試に掲載されていて、掲載されていた先のストーリーが気になって本を買いました。

③高校を卒業したらすぐに進学せずに、1年くらいは予備校に通って一般社会とは離れた生活をするのに何故か憧れていました。『星々の悲しみ』は、私の理想の予備校生活が描かれていて親近感が湧きました。物語では友達が死んだり、喫茶店から絵を盗んでみたりと、普通に生活していたらあまり関われない場面がいくつかあり、平凡な予備校生活を描いた内容だけではないです(私の高校卒業後はみんなと同様に、大学に進学してプレーンな毎日を過ごしていました)。

④読書は、私達が日常生活で体験できない内容について触れることができます。それは映像の様に、一瞬で過ぎ去るのではなく、読者の読む、理解するスピードに合わせてです。例えば『星々の悲しみ』では予備校に通う浪人生の気持ち、友達を亡くした気持ち、喫茶店から絵を盗み出す気持ち。私の人生ではどれも体験した事の無い事です。また、読書では様々な場面における相手の考えを知ることができます。大好きなあの子に突然別れを切り出された相手の考え、嫌いだと思ったあの子に、なぜか急に親近感を覚えてしまう時。一般的に私達は他人の心の中を自分が考えているみたいに正確に解釈する事は困難です。ドキドキした気持ち、ワクワクした好奇心、強度の不安や悲しみを、冬夜に読書で疑似体験するのも、名寄の冬の楽しみ方かもしれません。

看護学科 中島泰葉



①『瑠璃でもなく、玻璃でもなく』 唯川 恵

②「瑠璃」と「玻璃」という文字がとてもキレイに感じたことと、文庫本の表紙が色鮮やかで目を惹かれたからです。

③2人の女性を主人公にしており、それぞれの女性の仕事や恋愛、友人関係など日常生活が各章ごとに書かれており、どちらの女性も様々な苦悩や葛藤を抱えながらも自分の生活を見出し、自分とはどういう人間なのかを見つけていくところに面白さがあります。また、女性の可愛さや狡さ、弱さ、強さが鮮明に書かれていること、女性2人は特別な女性ではなく、どこにでもいるような女性であり、自分と重なる部分がありました。特に女性たちが感じている不安や葛藤に共感できる部分がたくさんあり、読み手の感情も揺さぶられるところに魅力があります。

「恋愛は不安との闘いであり、結婚は不満との戦いである」という一文を読んだとき、深く深く頷いてしまいました。本を通して、自分の恋愛についても振り返ることになり、何度読んでも飽きない本になりました。

④何気ない一文に共感できることを見つけることがとても楽しく感じます。疲れたときやゆっくりしたいときにお風呂に持ち込んで、何時間でも本と向き合うことでリラックスできたり、気持ちをリセットできることが読書の良さだと思います。

社会福祉学科 矢口 明



①『障害を持つ息子へ ～息子よ。そのままがいい。～』 神戸金史

②神戸さんは、これまでも自閉症児の父親として発信を続けてきており、息子の金佑くんは、自閉症協会のDVD や公共広告機構のポスターになっていた。その神戸さんが、本を出版したと聞いて、購入。

③本書は、2016年7月の津久井やまゆり園の事件がきっかけとなってまとめられた。

自閉症の子どもを育てている両親や弟の言葉がとても素直に表現されていて、障害のある子どもの親の心情や兄弟の思いを知るととてもわかりやすいテキストである。また、障害者を取り巻く世間の見方の一端をしることができる新聞の投書も掲載されている。

「ケアの未来をひらく」専門職を目指す皆さんに、是非読んでほしい。

④本を読むことは、経験したことのないことを想像したり、考えさせられたりする。物事に対する視野を広げ、自分の考えを深めていくために、本を読むことはとても有効だと思う。

社会保育学科 濱田香澄



①『わたしが私になる方法』 Sally Warner

②中学生の時に、表紙がかわいくて読みはじめたと思います。

③精神疾患を抱えるお母さんを自分一人の力で守って行こう、きっとお母さんは元の優しくてきれいなお母さんに戻るはずだと思って過ごす女の子のお話です。周囲の大人に嘘をつきながら、“問題のない母娘”を演じようとしています。物語の最後で、お母さんは入院してしまいます。お母さんのお見舞いについて、お母さんに声をかけますが、お母さんは自分のことしか考えていませんでした。そこで、やっ

と女の子が「わたしが私になる」ための一歩を踏み出す決意をしたところで物語が終わります。児童書ではありますが、女の子の葛藤や大人たちの身勝手さが描かれています。初めて読んだ時は、女の子がかわいそう、といった感想しか出てきませんでしたが、今では、女の子の状況を変えるために大人ができることはなんだろう、と考えながら読み進めています。

④読書自体は苦手ではありますが、そのときの気持ちや、自分のおかれている状況によって、感想や据え方が違う、また、新たな視点に気づくことができる、という点が読書の良さなのだと考えます。

教養教育部 今野聖士



①『図書館戦争シリーズ』 有川 浩

②kobo（電子書籍）の端末を購入した際に、昔から読んでいたラノベがセールで安かったので、大人買いして読んでいたのですが、ラノベのレーベルから小説を出している、ちょっと変わった作家さんがいることを知りました。その時、図書館シリーズが合冊本としてセール

になっていたのがきっかけです。

③ラノベ出身だと本人が言っているように、とにかくサクサク読むことができます。そして、わかりやすいくらいの純愛。まるでドラマを見ているようです。細かいことを言えば、リアリティのある設定を元にした緻密な世界観なども魅力としてあげられますが、あえてひとつ言うなら、やはり“ストレートな純愛”、これにつきます！ 4冊＋別冊2冊に渡る長編小説ですが、この世界にいつまでも浸っていたいと思えることでしょう。

④新しい世界に出会えるという点では、テレビ・映画と同じですが、読書は映像のように情報が豊富ではないからこそ、文章の行間を自分の想像で補う必要があります。つまり、読んだ人、読んだ時の状況によって、物語の解釈は異なるわけです。つまり100人100通りの楽しみ方があり、読み返すたびに新たな楽しみ方ができます。



新図書館情報



12月8日(木)に学生向け新図書館見学ツアーを開催いたしました。
見学後、参加した学生さんにインタビューをいたしました。



看護学科4年 猪狩 等さん

Q. 新図書館を見学した率直な感想は？

A. 外観が立派で、館内も立派だろうなと思っていましたが、予想以上に広くきれいで立派だと感じました。実際に使用したら、学生もより充実した大学生活を送れるのではないかと思います。

Q. 新図書館のどこに魅力を感じましたか？

A. 一番魅力を感じた点としては、私が4年生ということもありますが、学習スペースが沢山あるという点に魅力を感じました。教員が増え演習室が減ったことなどもあり、現在学生が学習する場所が少ないと実感していました。学習スペースが確保されたことで、テスト前や国試前の学習の場として新図書館が有効活用されるのだと思いました。また他の点としては、階を上がるごとに静かな環境となり、使いたい内容(勉強やグループワーク等)に合わせた階で学習できる点に魅力を感じました。

Q. 後輩に向けて新図書館のおすすめポイントはどこでしたか？

A. おすすめポイントは、前述のように、様々な学習内容に合わせて場所を変えられる点です。今までは、パソコン室やラウンジ、図書館等学習内容によって場所を移動する必要がありましたが、新図書館にはすべての設備があり、移動も楽になると感じました。私達4年生は残念ながら新図書館を利用できませんが、是非後輩のみなさんに有効活用してほしいです。



栄養学科3年 蛸島綾華さん

Q. 新図書館を見学した率直な感想は？

A. 新図書館見学ツアーに参加できて本当によかったです。現在、大学では自習室が少なく勉強する場所を見つけることが大変でした。ですが、新図書館では、3階まであり、自習スペースが多数確保してあったのでぜひ利用していきたいと感じました！また、研究発表ができるスペースもあったので、卒論発表の練習する場としても使っていきたいです。ありがとうございました！

開館時間変更のお知らせ

12月27日(火)～1月13日(金)

9時～19時まで

年末年始休館日

12月29日(木)～1月5日(木)

図書館閉館スケジュール

新図書館への引っ越し作業に伴い、本館・分館が閉館となります。
ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解ご協力のほどよろしく
お願いいたします。

本館 1月30日(月)～閉館

分館 2月20日(月)～閉館

- 編集後記 -

今年も残り少なくなりました。2016年皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。

昨年からはじめた新図書館建設が終了し年明けからはよいよ本格的な引っ越し作業が始まります。図書移動に伴い1月末より休館となるため、ご不便をお掛けいたしますが、どうぞよろしく
お願いいたします。



図書館だより

2016年第3号

2016年12月27日発行

名寄市立大学図書館運営委員会

〒096-8641

名寄市西4条北8丁目1

名寄市立大学図書館

